

伝統ある技術を 次の世代に残したい

ときめ輝びと

中川 正信さん (西浅井町山門)
締め込み織師



撮影場所：(株)おひ弘山門工場(西浅井町山門)

「カタンコトン…」自然豊かで観音文化の香り漂う山里の工場で、機織り機の音が響きます。40年ほど続くこの工場で、力士の締め込み(まわし)を織って20年ほどという中川さん。現在、県内で締め込みを織れるのは中川さんのみとのことで、昔ながらの機屋(はたや)とよばれる機織り機を使い、一本一本丁寧に織りあげます。ほとんどの締め込みは機械で織られる時代に、今なお手織りで続けているのは大変珍しい。手織りならではの柔らかな風合いと締め心地の良さを大事にしています。締め込みは、主に昇進した力士へ後援会から部屋を通じて贈られるもので、番付発表から次の場所が始まるまでのおおよそ1か月以内に作る

必要があります。注文が入ると、使用する約3万本の経糸(たいてい)や、太さ・強度の異なる5種類ほどの糸から20本程度に束ねた緯糸(よこいと)を用意し、朝5時から夕方5時まで休日を返上して織り続けます。中川さんは、リズムよく経糸の隙間に緯糸を通しながら、框(かまち)とよばれる木製の板で糸を締めていきます。この框は大変重いため、手前に引き寄せるにはかなりの体力を要し、また、打ち付けたときの衝撃で肩や肘が痛むこともあるそう。過去には、一度に5本の注文を受けたことも。それでも中川さんは、相撲という日本の国技に関わり、手織りで作っていることに誇りを感じ

ると言います。自分の織った締め込みで相撲をとる力士の活躍を思い浮かべながら、完成するまでは絹糸に汗一滴落とさぬよう細心の注意を払い、丹精込めて織りあげていきます。これまで、横綱をはじめ様々な力士に織ってききましたが、なかでも一番印象に残っているのは元曙関のもの。通常の力士の2倍は必要だったその織りの長さは38尺。仕上げたときには大きな達成感を味わったと言います。また、元朝青龍関や元魁皇関は、ここで織られた締め込みをととても気に入ってくれていたとのこと。中川さんは、「健康でいられるうちは機織りを続け、今後は若い人にも技術を伝え、この伝統工芸を継承していきたい」と語りました。

Smile Smile

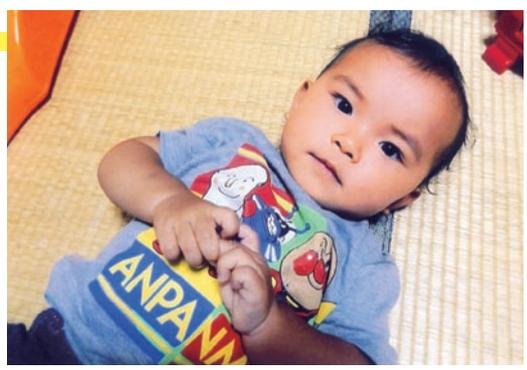
※このコーナーでは、市内在住のお子さんたちの写真を掲載します。笑顔と元気あふれるお子さんたちの写真を募集しています。掲載を希望する人は市民広報室(☎65-6504)まで申込みください。

弟が生まれてから、少しお兄ちゃんらしくなってきたかな。よく笑いよく泣きよく食べて元気いっぱい言ってるね!



大西 爽太ちゃん (平成23年6月生まれ)
(祇園町)

安田 美結ちゃん (平成24年7月生まれ)
(三田町)



甘えん坊でお喋りだーいすきな美結ちゃん! これからも元気で安田家のアイドルでいてね♡(笑)

まちの人口	平成25年8月1日現在	人口 123,085人	男 60,228人	女 62,857人	世帯数 44,358世帯
	平成25年7月中の異動	転入 290人	転出 253人	出生 105人	死亡 110人 婚姻 59件



この印刷物は、有害な廃液を排出しない水なし印刷を採用しています。また、大豆油インキを包み込んだ植物油インキと環境に配慮した再生紙を使用しています。

「広報ながはま」は、各自治会を通じてお届けすることを原則としていますが、市民交流センターや図書館、公民館など市の公共施設にも設置しています。市のホームページでもご覧いただけます。点字広報、声の広報を作成していますので、ご希望の方は市民広報室まで。

平成25年9月1日発行/編集・発行 長浜市市民広報室
〒526-8501 滋賀県長浜市高田町12-34 TEL:0749-62-4111 FAX:0749-63-4111
http://www.city.nagahama.shiga.jp e-mail:kouhou@city.nagahama.lg.jp